論文審査の結果の要旨

2021 年 7 月 24 日

崔暁芳氏は、大学院生時代から中国企業による M&A に伴ったのれんの減損問題を研究した。社会人になってから、企業経営者として M&A をはじめ多く実務経験を蓄積してきた。これまでの理論と実務を活かして、この度『のれんの本質と被取得企業の評価上の課題　－中国の M&A 会計実践の知見を踏まえて』を題とする博士論文を完成した。

論文では、①のれんの本質、好感価値観ののれん観、超過収益力ののれん観、総括的評価勘定観ののれん観、シナジー効果ののれん観並びにコアのれん観におけるのれんの本質的な問題を対象とし、法学的・経済学的・経営学的・会計学的の視点に基づき検証を行った。②転換期を迎えた中国の経済体制の下においても、資本市場に適応するのれんの本質は、共通した又は同様な意味合いをもっているのかを検討した。③中国企業による実際の買収事例の研究を通して、のれんにおける会計実務上の処理、公正価値評価による買収プレミアムとのれんの関係性などを検討した。

上記問題意識に対して、著者は「理論と実践の相互作用」及び「成功と失敗の要因」の比較研究の手法を用いて、近年著しく増加している中国企業の国内 M&A 又は対外 M&A の現状を把握し、その中に発生したのれんの件数、さらにのれんの減損問題をとらえた。のれんの概念については、分野横断的、学説史的な検討を踏まえ、のれんの本質に関する概念の解明を図り、コアのれん観が社会主義市場経済の中国に適用することを明らかにした。

このような学際的な検証を通じて完成した本論文は、一定の学術的貢献がなされたと評価される。また、中国企業の国内外の M&A に発生したのれんの研究、のれんの本質に関する概念解明を図った研究は、その研究の意義と重要性が認められる。中国企業による国内外の M&A に関する研究は少ない中、本論文の独創性、及び今後の研究の発展に有意義なサジェスチョンを提示したことも評価される。

主査（職・氏名）：研究科長　孫根志華